【質問】

問2（仮称）静岡市手話言語条例骨子案について、意見をお聞かせください。

【凡例】

- ・意見者番号は、受付順に付番しています。
- ・意見番号は、1人から複数の意見があった場合、意見内容ごとに付番しています。
- ・項目の分類は、意見内容に応じて、該当すると思われる素案の項目ごとに便宜的に記載しています。

意見者番号	意見番号	問2		条例骨子案に盛込済	条例骨子案に反映	今後の取組の参考とする	その他	市の考え方
		項目	意見					
1 (74)	1	8施策の推進	手話は言語である。そして、静岡県内のニュース（情報を含む）のために手話通訳（者）を導入したい。（手話通訳（者）が導入されていないままだと、情報が足りなくなる。） 災害などの緊急時に、できるだけ手話通訳（者）を導入すべき。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、様々な場面で手話も用いられることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
2	2	1前文	前文のなかの○の二番目の四行目。 そうした中でも手話は大切に受け継がれ、平成18年には国際連合総会において、 <u>手話の使用を認める内容を盛り込んだ</u> 「障害者の権利に関する条約…」 下線の部分を <u>手話は言語である</u> ということを認める「障害者の権利に関する条約…」に変えて下さい。		○			言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
3	3	全体	条例の文章が長くて難しい。 もっと短い文にしてくれたら、ろう者も理解できると思います。			○		法令独特の言い回しもあり、難しく感じられることあるかと思います。 市民の皆様が条例を読んだときに、十分に理解が深められるよう、条例の周知に努めていきます。
4	4	8施策の推進	手話教室が多数開催されて、気軽にろう者と触れ合う機会が数多くあれば良いと思います			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、様々な立場の人が触れ合う機会が増えることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
5	5	8施策の推進	サークルと講座以外で静岡では手話に出会ったことがありません。この条例をきっかけに少しずつ手話が広がりコミュニケーションが取りやすくなれば良いと思います。 ただ、手話は難しいので、手話教室とか手話に触れる機会が増えれば良いと思います			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、様々な立場の人が触れ合う機会が増えることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
6	6	8施策の推進	サークルで勉強中ですが、家の近くで手話を学べる場所があったら嬉しいです。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話に触れる機会が増えることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
7	7	8施策の推進	手話を学ぶ機会のある人は限りがあると感じています。 興味のある方が入りやすい窓口がもっと多くあれば、もっと多くの人が手話を学び、使うことができると思います。 私はサークルに入って一から学んでいますが、続けていくには気持ちの維持が大変だと思います。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話に触れる機会が増えることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
8	8	全体	・言語条例の目的等、わかりやすく説明されていました。 ・今後のスケジュールがスムーズに出来ますように、願っています。 ・何かお手伝いできることがあれば参加したいと思います。			○		この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じる事ができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。

9	9	その他	いつでもどこでも手話で話ができるようになるとうれしい。				○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
10	10	1前文	前文について、3行目「手段として使用している」という表現ではなく、「欠かせない言語」としてほしい。				○	手話も欠かせない言語であると認識しています。 前文冒頭では、言語としての手話の使われ方について説明しており、言語全般が誰にとっても欠かせないものであるとの認識から、手話だけを欠かせないものとする表現はしていません。 なお、前文後段、目的、基本理念において、「手話が言語である」と明記しており、言語全般と同様に生活に欠かせないものとの意味も含んでいます。
10	11	6市民の役割	6市民の役割について各町内、自治会でろう者との交流の機会（手話の学習を含めて）が広がれば良いと思います。まずは身近な地域の人たちへの理解・協力と交流の場が必要かと思えます。				○	身近な地域においてろう者とうろ者以外の人々が交流することが、当たり前の社会になることを望んでいます。条例の制定や周知が、そうした社会の実現につながるよう取り組んでまいります。
10	12	その他	手話は言語だと思っていました。早く条例をつくって安心して手話を使えるようになると思います。むしろまだ条例がないことの方が不思議です。私も少しでも手話を使えるように頑張ります。骨子案を見ても当たり前のことばかりです。				○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 この条例は、手話についての理念（考え方）を明文化しようとするもので、既に手話に接している人にとっては「当たり前」の内容に見える部分も多いと思います。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
11	13	1前文	令和6年度第3回開催実績の資料の中の資料1、最終条例案についての最終案の前文中一行目を加えてほしいと思います。 理由として、先ず一行目の「手話は言語です。」という文言が必要ではないでしょうか。前文は、この条例を制定する理由を示すものだと考えます。この一文は大きな意味を持つものだと思います。	○				ご提案にあった「手話が言語である」という文言は、「前文」後段、「目的」、「基本理念」において記載しています。 「前文」冒頭では、手話が独自の体系を持った言語であることを分かりやすく表すために、言語としての手話の性質や使われ方を説明しています。
12	14	1前文	聞こえない人が主人公のテレビドラマや映画が話題になり、「ろう者」「手話」の言葉は広まっている。ただ、前文にある、ろう者と手話の深いつながりや歴史については、まだまだ理解されていない。来年、手話言語条例が制定されると、11月にデフリンピックも開催されるので、ろう者に対する考えが大きく変わると期待している。自身は、身近な場で、できることは何か探しながら活動を続けたい。				○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 これまでに手話に関わりがない人も含めて、多くの人が手話に触れる機会をつくることのできるよう、手話への理解の促進や手話の普及に取り組んでまいります。
13	15	全体	ろう者が手話を使うことに好機が目で見られ、手話を使うことをためらうことがない社会を作るための手話言語条例であってほしい。				○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
13	16	8施策の推進	市の行事活動に手話通訳者や手話のわかる人を付けなければならないことを記してほしい。				○	現在、本市では、手話通訳が必要になる場面に手話通訳者を派遣しています。 条例制定後も引き続き、必要な場面に通訳者を派遣し、手話を必要とする人が安心して手話で意思疎通ができるよう、庁内全体に手話通訳者派遣及び手話通訳者設置制度の周知を行ってまいります。 併せて、手話通訳者等の人員に限りがあることから、その人材育成の取り組みを継続するとともに、有効に活用できるよう施策を講じてまいります。
14	17	1前文	前文の9行目 「手話の使用を認める」のところは「手話は言語として認める」ではないでしょうか。国際連合総会、加盟国すべての賛成で採択されています。（全国手話研修センター養成テキストより）ご検討くださいますようお願いいたします。 ※静岡市手話言語条例の制定によって今後静岡市に留まらず、共通の言語としてさらに広がり、情報の共有ができ、よき社会環境が実現することを願っています。				○	言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
15	18	1前文	前文について ・口話法（口の動きを見て…）の（）の部分は、「読話」だけの説明なので、「音声で話すための発話を訓練する教育」という内容を含めるのはどうでしょうか。 ・「手話の使用を認める内容」という表現は、「手話は言語である」と定義されたので、変更して欲しい。				○	口話法には、読話だけでなく発話も含まれることから、「口の動きを見て言葉を読み取り、音声で発話する方法である口話法」に修正します。
15	19	全体	条例の表記は（平成）だけではなく、西暦も必ず併記して下さい。平成〇〇年、昭和〇〇年というのはわかりにくいです。				○	本市では、慣例として条例等の例規には和暦を採用していることから、和暦での表記とします。

15	20	全体	・待ちに待った静岡市手話言語条例の施行、とても嬉しく思います。施行日には各メディアで取り上げて欲しいです。 ・ろう者にとって手話が言語として認められることはとても大切なことと強く感じるとともに、高齢になり、聴力が低下した時にも手話は大きな力になると思います。その為にも手話言語条例は大切だと思います。			○		この条例でも、手話が独自の体系を持った言語であることを広く分かりやすく表すために、前文において手話の性質を説明しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、様々な情報媒体を活用するなど、より一層、条例の周知を図っていきます。
16	21	1前文	・前文の上から9行目の「手話の使用を認める内容を…」は、「手話は言語であることを認める」とした方が、手話は言語であることが明確になると思う。ろう者とのコミュニケーションはもちろんの事、手話を知らない人、見たことがない人も手話言語条例があれば、手話という言語と出会うこととなり、交流が深まると思う。手話が目で見る言葉であることを市民全ての人々が理解すれば、手話を第一言語としている人たちとの交流が自然と出来ると思う。世の中にいろんな言語がある中で、手話という言語がろう者にとって又ろう者と交流するために必要な言葉であると思う。以上のことにより手話言語条例は必要な条例だ。 ・「言語である」という認識と言われてもちょっと難しいので、やってはいけない例などがあるとわかりやすい。 ・手話の使用を認める内容…おかしい手話言語…正しい			○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」 なお、市民の皆様が条例を読んだときに、十分に理解が深められるよう、条例の周知に努めていきます。
17 (34)	22	1前文	前文はやはり必要だと思いました。 すばらしい出来栄えて、ろう者はとても分かりやすいと思いました。聞こえる私もよく分かりました。 手話が身近になるように、今、仕事場では簡単な手話や手話の歌を子どもたちに教えています。 自分は何ができるのかを考えていきたいです。			○		この条例では、「手話は言語である」との認識に基づき、条例の目的や基本理念等を本則に定めています。 こうした条例を制定するに至った経緯や趣旨が分かるよう前文で説明し、誰にとっても条例の目的や基本理念等が理解しやすくなるようにしています。 今後とも、手話への理解が深まるよう、前文を含めた条例の周知に努めてまいります。
18	23	8施策の推進	中途失聴者、難聴者の手話を学習していない人達にも学習する機会を作って欲しい			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話学習の機会が、学ぼうとする人の状況に合わせて設けられていることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われれます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
19	24	8施策の推進	静岡市のろう教育の歴史の流れも必要。ろう学校の方針、それを受けてろう者の家族はどうしたのか、という正直な歴史を経て、手話がどう見られてきたのか知らせるべき			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、この条例が目的とする地域共生社会づくりに向けて、より深く周知すべき内容もあろうかと思われれます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
20	25	8施策の推進	手話が言語として制定された後の活動が活発に続くよう、予算が継続してつくことを願っています。			○		この条例では、「施策を総合的かつ計画的に講ずる」とし、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」において、目標年次や量的な目標値も定めていくこととしています。量的な目標値等を定めるにあたり、必要な財政措置の検討も伴うものと考えています。
21	26	8施策の推進	・乗り物の案内板に手話通訳画面を設けたらどうでしょうか？設けてください。(例.次のバス停の名前。交通が混んでいる為遅れます。とかの通訳画面) ・建物内に手話通訳画面を設けてください。 ・上記の費用に関しては、国と県と市のどちらか出す事は可能でしょうか？			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、様々な案内が手話で表示されるようになれば、この条例が目的とする安心感の提供につながると思われれます。 ただし、具体的には、費用負担の他、表示方法などについても、事業者の意向等もふまえて相当な検討が求められる内容とも見受けられます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
22	27	1前文	「理解を高めていく」は深めていくとか広げていくとかいう表現のほうが、内容や他の部分の表現と合うような気がします。			○		条例の趣旨を踏まえて、「理解を深めていく」といった表現が適切と思われるため、修正します。
22	28	1前文	「口話法(口の動きを見て言葉を読み取る方法)」とありますが、()内は読話のことに思っています。「口話法」は、口の動きを見て言葉を読み取ったり、音声で発話したりする方法ではないでしょうか。			○		口話法には、読話だけでなく発話も含まれることから、「口の動きを見て言葉を読み取り、音声で発話する方法である口話法」に修正します。

22	29	1前文	「手話の使用を認める」(権利条約についての部分)は、手話は言語と認める、では?		○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
22	30	全体	「手話は言語」という認識が、条例制定によって広まり、手話を言語とする皆さんが暮らしやすい静岡市になることを期待しています。			○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
23	31	その他	古い手話、新しい手話を覚える必要			○	ご意見ありがとうございます。 この条例は、日常的に手話にかかわりがある人だけでなく、これから手話を知ってかわっていく人も対象としております。 今後、多くの市民の皆様が手話への理解を深め、いただいたご意見のように様々な手話を学ぶことができるようにするため、本市としてはまず手話を知る・学ぶことを進めていくところから取り組んでいきたいと思っています。
24	32	1前文	前文の中で、手話の使用を認めるではなく、手話を言語と認めるに変更してほしい。この条例は言語であることが一番大切にうたっているものなので。		○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
24	33	その他	手話を理解してもらおう。ろう者を理解していただくにはまずは市民が手話を目にする機会を多くすること。この条例により、予算もつき、その機会をつくってほしいと思います。			○	ご意見ありがとうございます。 これまで手話に触れたことがない人も含めて、多くの人々が手話を知る・学ぶことができるよう、手話への理解の促進や手話の普及に取り組んでまいります。
24	34	7事業者の役割	職場においても、簡単な手話の勉強会を開き、ろう者への理解を深めるようにしてほしいと思います。少しでも勉強することにより、手話に興味を持ち、ろう者の人達との距離も縮まり、コミュニケーションを取りやすくなるのではないのでしょうか。			○	この条例においては、事業者の役割を定めており、市を含む様々な主体が行う、手話への理解の促進及び手話の普及のための活動に協力するものとしています。より一層事業者が手話への理解を深めることができるよう、条例の周知に努めてまいります。
25	35	1前文	「手話の使用を認める」の表記について 障害者権利条約で「手話は言語」として認められるとあり、「使用を認める」ではない。大切なのは、「手話=言語」と言うこと。この表記にした理由を教えてください。「使用を認める」の表記のままだと、手話は許可がないと使えないと誤解されてしまう。なぜ、わざわざこの表記にしたのか。このまま前文に載せられると、静岡市の条例が間違った解釈で伝わるのは困る。(日本語を”使用”するとは言いません。手話が言語であるなら、”使用”、”情報伝達の手段”という言い方はやめていただきたい)		○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
25	36	1前文	前文はろう者がなぜ差別を受けることになったか、歴史的背景を細かく載せることが大切です。前文を作成していただいたのはとてもありがたいのですが、歴史的背景が細切れで肝心な部分が伝わってきません。言語を奪われた背景、ミラノ会議について載せないのは何故ですか。			○	前文では、手話の歴史について広く分かりやすくするため、端的な記載にとどめています。今後、普及啓発をしていくにあたり、より詳しい歴史的経緯も踏まえた条例の周知に取り組んでまいります。
25	37	8施策の推進	8政策の推進の中に「実施状況の公表」を入れて欲しい			○	この条例に基づく施策は、障害者基本法に定める市町村障害者計画等(静岡市障がい者共生のまちづくり計画)に定めて、実施状況の点検・見直し等を行います。この計画は、法令に基づいて「静岡市施策推進協議会」において審議されることとなるなか、施策の実施状況も含めて会議録等は公表されます。
25	38	1前文	手話が言語として認められるまでの困難な壁があったことを前文に入れたのは良いと思う。知るきっかけになる。まだまだ現状も満足のいく状態ではないが、全ての人々が共に共生できる世の中になることを希望する。			○	この条例では、「手話は言語である」との認識に基づき、条例の目的や基本理念等を本則に定めています。 こうした条例を制定するに至った経緯や趣旨が分かるよう前文で説明し、誰にとっても条例の目的や基本理念等が理解しやすくなるようにしています。 今後とも、手話への理解が深まるよう、前文を含めた条例の周知に努めてまいります。
26 (80)	39	8施策の推進	条文に「財政上の措置」を入れてほしい。 (例)市は手話の普及等に関する施策を推進するため必要な財政上の措置を講ずる。			○	この条例では、「施策を総合的かつ計画的に講ずる」とし、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」において、目標年次や量的な目標値も定めていくこととしています。量的な目標値等を定めるにあたり、必要な財政措置の検討も併うものと考えています。

26 (80)	40	前文	下から5行目「安心して手話を使用できる」→「安心して手話を使える」としてほしい。”自由に”は要らないと思う。			○		手話を使用しようとする人の能力を表す表現ではなく、使いたいときに使うことができるという趣旨の表現としてより分かりやすいと考え、「使用できる」としています。
26 (80)	41	前文	7行目「手話を自由に使うことが認められない…時期」→手話が言語として認められない時期			○		明文化された言語として位置付けられたのは「障害者の権利に関する条約」(平成18年採択)であり、それ以前は、口話法による教育にみられるように、手話を学ぶことや使うことが否定されてきた状況にあったと認識しています。それをもって、「言語として認められなかった」という表現も考えられますが、より客観的に当時の状況を表現した内容で記載しています。この文節では、制限された時期があったにもかかわらず、手話が大切に受け継がれてきたことを要点として表しています。
26 (80)	42	前文	・障害者権利条約の定義に手話が「言語」と位置づけられ ・国内法 障害者基本法…言語(手話を含む)と明記され 上記がごちゃまぜになっていると思う。2つを明記してほしい。 ・9行目「手話の使用を認める」→「手話が言語である」「言語」という言葉を使ってほしい			○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
27	43	全体	骨子案については、特に意見はありません。皆さんの思いが一日も早く静岡市手話言語条例の施行につながる事を祈っています。そして手話に関心を持ってくれる人が増え、耳の聞こえない方たちとのコミュニケーションが広がっていく事を望みます。			○		ご意見ありがとうございます。これまで手話に触れたことがない人も含めて、多くの人々が手話を知る・学ぶことができるよう、手話への理解の促進や手話の普及に取り組んでまいります。
28	44	前文	「手話の使用を認める」という文章がおかしいのでは？この表現は、現在でも手話の使用は認められていないことになるのでは？「手話が言語として認める」が正しいのでは？			○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
28	45	前文	前文はろう者の歴史についてわかりやすい。良いと思います。			○		市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
29	46	8施策の推進	いつもは娘に通訳してもらっているが、娘がいない時など、手話であいさつなどできる人が増えてほしい。			○		ご意見ありがとうございます。現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。いただいたご意見のとおり、手話を必要とする場面で安心してコミュニケーションできることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
30	47	8施策の推進	・ろう者及び健聴者が手話で会話するあたり前の社会の実現のために、手話への理解がさらに必要だと思う。 ・ろう者が自分の意見を安心して自由に表現できる環境作りが社会(静岡市)に求められていると思います。 ・ダイバシティ静岡を目指しての一步ではないか!協力して行きたいと思う。			○		ご意見ありがとうございます。現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。いただいたご意見のとおり、ろう者が自分の意見を安心して自由に表現できる環境づくりのためにも、手話への理解の促進や手話の普及は重要だと考えます。今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
31	48	前文	前文 手話の使用を認める 変ではないですか？ 手話は言語であると認める が正しいと思います。			○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」

32	49	1前文	前文のところで「手話の使用を認める」とありますが、「手話は言語であることを認める」のだと思います。		○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
33	50	8施策の推進	小学校等で道徳の時間でもかまわないので、国語や音楽などと同様に、手話の学習時間を取り入れることを期待しています。(小さいときから手話にふれる時間を)			○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
33	51	3定義	「ろう者」と「ろう者以外」について、定義をしっかりと定めているので良かった。			○	ご意見ありがとうございます。 定義に対する意見は他にもあったこともあり、「聴覚に障がいがある者のうち」と追記することといたします。 なお、手話への理解を通じて、全ての市民が安心して暮らすことができる社会づくりに向けての施策の対象は、ろう者はもとより、その家族等も想定していることから、前文の一部条文については、「ろう者をはじめとした日常的に手話を使う市民」との表現といたします。
34 (17)	52	8施策の推進	手話サークルに週1回通っていますが、手話言語条例が制定されて、サークル以外でもいつでもどこでも気軽に(普通に)手話べりできるのが当たり前になる日が来ることを楽しみにしています。			○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
35	53	8施策の推進	ろうあの方も健常者と同じ人間です。区別されることは必要ありません。なので、手話の大切さを大勢の方々に知っていただく為、とても良い案だと思います。私自身、手話通訳者を目指したいと思っています。			○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、ろう者とろう者以外の人がお互いに尊重し合うことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
36	54	全体	静岡市として動き出したことがうれしい。 市民の皆さんに広く知っていただける条例と思います。			○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
37	55	1前文	平成18年「手話の使用を認める内容」がおかしい。 「手話は言語である事と認めた」が良いのでは？		○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
38	56	8施策の推進	・サークルに行くとか、特定の職場でしか、なかなか手話を目にする機会がないので、日常的に手話に触れる機会が増えるといいなと思います。 ・子どもたちの学校や、社会でも触れる機会が増えていくといいなと思います。 ・自分から特定の場所に行かなくても日常的に手話に接する機会が増えたらより手話を身近に感じることができるのかな?と思います。			○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。

39	57	1前文	前文。 「手話は元来、教育に用いられて」→違う。 ろう者の言語として、日常会話や、きこえる人との会話にも用いられてきた 「手話の使用」ではなく、「手話で話す」という表記が合うのではないか。		○			日常生活で使われる手話が、教育現場においてもろう者の学業習得のために教師が使っていた背景を踏まえた表現として、「教育にも用いられて」という表現に修正します。 「手話で話す」という表記については、全体を通じて「手話を使う」「手話の使用」という表現に揃えています。
40	58	8施策の推進	条例を施行したら、少しずつでも市民に手話を広める活動を実施して欲しい。まずは、大きな企業や学校から取り組み、「手話ができる」ことを当たり前！（めずらしいとジョジョと見られない世の中）活動するためには、予算が必要だと思えます。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
41	59	1前文	前文について、手話の必要性がよく分かって良かった。 手話やろう者への理解が広まってほしいと思います。 前文の「手話の使用を認める」というのはおかしいと思います。手話が言語としてもっと社会に広まってほしいです。		○			言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
42	60	1前文	前文について ・手話またはそれを使用するろう者のことが詳しく書かれていて、分かりやすかったです。 ・手話が言語であるということを胸を張って言えるようになってほしいです。 ・前文の「手話の使用を認める」という文はおかしいと思いました。		○			言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
43	61	8施策の推進	政策の推進に必要な予算が書かれていません。予算のことも記載をお願いします。			○		この条例では、「施策を総合的かつ計画的に講ずる」とし、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」において、目標年次や量的な目標値も定めていくこととしています。量的な目標値等を定めるにあたり、必要な財政措置の検討も伴うものと考えています。
43	62	1前文	「手話は、元来、ろう者への教育に用いられて～」とありますが、教育の場面では用いられていません。手話の歴史の見直しをお願いいたします。		○			この条例の内容を検討する中で、手話が教育にも用いられてきたことが確認されたため、こうした表現としています。ただし、教育にとどまらず日常生活でも用いられてきていることから、「教育にも用いられて」という表現に修正します。
43	63	8施策の推進	・聞こえない子どもおよび幼少期に手話を学べなかった大人、中途失聴者が手話を学べる機会（教育）の提供をお願いします。 ・手話通訳者の正規職員としての採用をお願いします。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話を必要とする人が手話を学び、手話を使える人の活躍の機会が増えることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
44	64	1前文	素晴らしい前文と思います。 でも、文中にある「手話の使用を認める内容」は変です。上から目線で物申すように思われます。私たちは平等であり、お互い尊重し合うのが当然と考えているからです。手話が言語として普及していく事を切に願っています。		○			言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」 なお、この部分の表記については前述のとおり「障害者の権利に関する条約」から引用したのですが、ご意見のとおり、互いに尊重し合う心を育むことはこの条例の制定趣旨でもあります。

45	65	8施策の推進	ろう者の熱心な姿に感動した。 是非市民に理解して欲しい。 もっと手話は言語だという事を広めたい。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話への理解の促進や手話の普及は、この条例の目的でもあります。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
46	66	全体	ようやく静岡市でも手話言語条例が認められ、制定の運びとなりうれしく思います。これを機に手話をとりまく環境が広まり、理解が深まることを望みます。			○		ご意見ありがとうございます。 これまで手話に触れたことがない人も含めて、多くの人々が手話を知る・学ぶことができるよう、手話への理解の促進や手話の普及に取り組んでまいります。
47	67	1前文	前文2項目「手話は元来、ろう者の教育に用いられてきましたが…」の文章について。 意味の取り方によっては「手話がろう者の教育のために作られたもの」的にとれると感じてしまいました。 「日常生活で使われる手話が教育現場でもろう者の学業習得のために教師が使っていた」ことがわかる文章にしたら良いと思いました。		○			日常生活で使われる手話が、教育現場においてもろう者の学業習得のために教師が使っていた背景を踏まえた表現として、「教育にも用いられて」という表現に修正します。
48	68	1前文	・前文が良いと思います。ろう者の思いが書かれてわかりやすかった。 ・静岡市にも手話言語条例ができてうれしいです。 ・手話は言語であることの普及のために、私ももっと手話を勉強していきたいと思いました。			○		この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
49	69	8施策の推進	自分も手話普及のために手伝いたい。そのために市は具体的にどんなことをするのか知りたい。予算についても気がかり。			○		この条例に基づき講じる施策は、「施策の推進」に掲げる3つの柱を予定しています。 具体的には、条例骨子案の解説にも記載しているとおり、啓発イベントの実施やリーフレット配布による手話への理解促進、手話通訳者の派遣等による意思疎通支援、手話教室等の実施による手話を身に付ける人の確保を検討しております。 今後も、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
49	70	1前文	前文が良かった。ろう者の思いが書かれていてわかりやすかった。			○		この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
50	71	1前文	手話の必要性、歴史がわかる文章ですごく良いと思いました。コミュニケーションを取る為に完璧に手話を覚えてなくても、日常生活で使う簡単な手話をまず覚えていただけると有難いです。			○		この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
51	72	8施策の推進	するかの会で、はじめてこの案を知りました。 手話に縁がなく、手話もわかりませんが、私のような人がたくさんいるので、広めていただけると、知らなかったことを知る機会になると思いました。 これから手話を学ぶ身として、もっと広めてもらえればと思います。また、私自身もこれから覚えていきたいです。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話への理解の促進や手話の普及は、この条例の目的でもあります。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
52	73	全体	よくわからない、難しい			○		法令独特の言い回しもあり、難しく感じられることあるかと思います。 市民の皆様が条例を読んだときに、十分に理解が深められるよう、条例の周知に努めていきます。
53	74	8施策の推進	例えば、小学校の授業に手話を取り入れても良いのではないかと思います。英語を教える前に、まずは日本人同志のコミュニケーションを取る事が大事ではないでしょうか。たまたま聞こえる人も、たまたま聞こえない人も同じ仲間です。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。

54	75	1前文	前文の中に手話の歴史が入っていることがとても良い。私の周りの聞こえない人たちを見ていると、手話を認めない教育による弊害を感じる。自分の言語を確立できなかった人、家族と話せなかった人など色々な人がいる。手話への偏見をなくすため、大事な前文だと思う。				○	この条例では、「手話は言語である」との認識に基づき、条例の目的や基本理念等を本則に定めています。こうした条例を制定するに至った経緯や趣旨が分かるよう前文で説明し、誰にとっても条例の目的や基本理念等が理解しやすくなるようにしています。今後とも、手話への理解が深まるよう、前文を含めた条例の周知に努めてまいります。
55	76	1前文	・前文で「手話の使用を認める内容」とありますが、「手話を言語とする事を認める内容」にして頂きたい。 ・手話を市民に使えるようになってろう者をはじめとして理解が深まると思うので良いと思います。				○	言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
56	77	8施策の推進	日常的に誰でも気軽に手話が使えらる社会になればいいなと思います。「手話は言語である」ということを市民にわかりやすく説明していく必要があります				○	ご意見ありがとうございます。現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。いただいたご意見のとおり、手話への理解の促進や手話の普及は、この条例の目的でもあります。今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
57	78	その他	日常生活で手話はかかせない。手話で色々会話出来ると楽しい(相手の気持ちを組み取れる)				○	ご意見ありがとうございます。手話を必要とするすべての人々が、安心して手話を利用できるよう、手話への理解の促進や手話の普及に取り組んでまいります。
58	79	1前文	前文を読みましたが、一定の大人はあるていど理解できますが、老若男女すべての人が理解できる書き方になっていないと思います。静岡市民しべての人に知る権利があるわけですから、もっとわかりやすい書き方に作成すべきだと思います。				○	法令独特の言い回しもあり、難しく感じられることもあろうかと思えます。市民の皆様が条例を読んだときに、十分に理解が深められるよう、条例の周知に努めていきます。
59	80	8施策の推進	市から予算を入れてほしい。				○	この条例では、「施策を総合的かつ計画的に講ずる」とし、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」において、目標年次や量的な目標値も定めていくこととしています。量的な目標値等を定めるにあたり、必要な財政措置の検討も伴うものと考えています。
60	81	8施策の推進	昔はとてもつらかった。コミュニケーションも上手くとれず、話も通じず、とても苦しかった。奉仕員養成講座で手話を教え、少しずつ手話を覚えてもらった。そうすると、お店で自然に手話を表してくれるようになり、少しずつ通じるようになり、交流を深めることができ、とてもよかったと思う。やはり、手話への理解を広めることが大切だと感じた。もっとも静岡だけでなく、全国の人たちと交流し、気軽にあいさつできるように交流を深めたい。奉仕員養成講座に多くの人に参加してもらい、手話を教えたいと思っている。昔はつらかったが、少しずつ理解が深まり、改善してきたと思う。条例ができれば、とてもうれしい。もっと手話を広めていきたい。ご協力をお願いします。				○	ご意見ありがとうございます。現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。いただいたご意見のとおり、手話への理解の促進や手話の普及は、この条例の目的でもあります。今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
61	82	1前文	前文のミラノ会議の決議には違和感を覚えます。				○	前文では、手話の歴史について分かりやすくするため、端的な記載にとどめています。「ミラノ会議」という表現は用いてませんが、文献等で確認できる歴史的事実を記載しています。今後、普及啓発をしていくにあたり、より詳しい歴史的経緯も踏まえた条例の周知に取り組んでまいります。
61	83	8施策の推進	ろう者で旅行に行きたい人はたくさんいます。不便に思っていることは、見学する際に手話通訳がないこと。せめて聞こえない人のために説明文が置いてあればありがたいです。受付で話をする際、受付の人が少しでもかまわないので、手話を使ってくれるといい。手話がもっと広まっていくとうれしいです。				○	ご意見ありがとうございます。現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。いただいたご意見のとおり、少しでも手話を使う人が増えることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。

62	84	8施策の推進	<p>基本理念は理解し、手話が言語であることも理解しますが、周りに手話を必要とする人がいない為、積極的な行動は取っていません。年令的にも(60代)中途半端な学びでは不安もあり、二の足をふみます。若い頃からふれる機会がもっとあれば違ったのかもと思います。施策にもありますが、小中学校での学習やふれる機会を継続していけると良いと思います。</p> <p>役に立たないときは、筆談も可能なのでしょうか</p>				○	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。</p> <p>いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増すことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。</p> <p>また、筆談についても、コミュニケーションを図る手段の一つとして役立つ場合も多いかと思えます。</p> <p>今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。</p>
63	85	8施策の推進	<p>「全ての市民が安心して暮らすことができる本市となることを目指し」</p> <p>早くそうなることを願っています。どこにいても視覚的情報が取得できる環境インフラに予算を設け、住みよい街作りをお願いしたいです。</p>				○	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。</p> <p>いただいたご意見のとおり、手話を含む視覚による情報保障を進めていくことも、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。</p> <p>今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。</p>
64	86	8施策の推進	<p>手話言語条例案について、「ろう者」の方の社会での立場や生活がもっとよいものになるために、きっと必要なのだと思います。</p> <p>普段は考えた事ありませんでしたが、改めて条例案を読み、すべての国民が平等に生活するために必要な政策が行われるようにするためには、「公」に、もっといろいろな場所で発信する必要があり、そのために条例がかかせないのだと思います。もっと認知されるためにこの条例は大切なのだと思います。</p>				○	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。</p> <p>いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増すことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。</p> <p>今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。</p>
65	87	全体	<p>手話がこれから周知されてどこでも手話で話ができるようになってうれしいです。</p>				○	<p>この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。</p> <p>市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。</p>
66	88	全体	<p>条例ができて手話が周知されて手話で話をしていても変な目で見られない社会になってほしい。</p>				○	<p>この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。</p> <p>市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。</p>
67	89	8施策の推進	<p>手話が聞こえない人たちにとってどんなに大切か、よくわかります</p> <p>この条例制定後は静岡市が主催または後援するイベント等には手話通訳をつけていただけますか？</p>				○	<p>現在、本市では、手話通訳が必要になる場面に手話通訳者を派遣しています。</p> <p>条例制定後も引き続き、必要な場面へ通訳者を派遣し、手話を必要とする人が安心して手話で意思疎通ができるよう、庁内全体に手話通訳者派遣及び手話通訳者設置制度の周知を行ってまいります。</p> <p>併せて、手話通訳者等の人員に限りがあることから、その人材育成の取り組みを継続するとともに、有効に活用できるよう施策を講じてまいります。</p>
68 (89)	90	8施策の推進	<p>手話の理解、普及にあたって施策の推進(特に手話を知る)が重要になるが、その内容について、他の市のように予算を出して「有名人を呼ぶ」「イベントを行う」で終わってほしくない考える。</p> <p>静岡市の税金で行うわけだから、有効に使うべきと考える。できれば静岡市にお金を落としていくような仕組みになるのが良い。</p> <p>例に、有名人を呼んでも予算が他の県に渡るようであればそれは成功といえるのだろうか。</p> <p>静岡市は様々なコンテンツ(動物園、美術館、観光地、企業、プロスポーツチームなど)があり、それらを活用することで施策の推進ができるのではないかと。</p> <p>行政は施策を推進していくうえで、静岡市のコンテンツを積極的に活用できるよう支援していくべきだと思う。</p> <p>その結果、静岡市内で行うわけだから経済効果も見込めるため、実りのある施策を期待したい。</p>				○	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。</p> <p>いただいたご意見のとおり、本市の資源を活かして好循環を生むような取り組みは、身近なものとして持続性も確保でき、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。</p> <p>今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。</p>

69	91	8施策の推進	<p>手話サークルに入っていなかったら、手話の骨子案を目にする事はなかったと思います。パブリックコメント等の情報もなかったかと思います。</p> <p>理由として</p> <p>①身近に聴覚に障害がある方がいない事。 ②手話を日常生活で目にする事がない事。 ③サークルでしかろう者の方と接する機会がない事。(触れあう事がない)</p> <p>私達は何事においても、自分がそういった不便な環境化や困り事に対面しない限り、耳や目にしても人事と捉えてしまい可哀想、困っていると憐憫に思うばかりで真剣に考えたり行動する事はないと感じます。</p> <p>自分や家族が困った状況化におかれて、相手に対する思いに目を向ける事が多いと感じます。</p> <p>この条例施行推進に対し共生社会、社会の障壁を取り除くにはいち早く子供の頃から健聴者が手話に対する関心や知識を持ち技術を身につける事が何より大切な事と感じます。</p> <p>義務教育の一環として、道徳の授業に手話の教科書を取り入れるべきかと感じます。</p> <p>ろう者との交流を身近に取り入れる事が何より大切だと感じます。(なぜならば、聴覚障害の方は外見からは判断は難しいです。)</p> <p>骨子案が施行され、聴覚に不便をお持ちの方が日常生活の中で差別される事なく健聴者の方と気軽に建設的対話の取れる、住みやすい環境になる事を心より願います。</p>					○	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。</p> <p>いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。</p> <p>今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。</p>
70	92	1前文	ろう者の言葉である手話は、言語であることが定義である。	○					<p>手話が言語であることは、「前文」後段、「目的」、「基本理念」において記載しています。</p> <p>「前文」冒頭では、手話が独自の体系を持った言語であることを分かりやすく表すために、言語としての手話の性質や使用方を説明しています。</p>
71	93	1前文	<p>「平成18年には国際連合総会において、手話の使用を認める内容を盛り込んだ『障害者の権利に関する条約』が採択され、」とありますが、これは適切でない表現だと思います。障害者の権利に関する条約第2条には、「『言語』とは、音声言語及び手話その他の形態の非音声言語をいう。」とあり、これは「手話を言語の一つとして認めた」ということです。そのため、「手話の使用を認める」ではなく、「手話を言語として認める」が適切だと思います。ぜひ修正を御検討ください。</p>					○	<p>言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。</p> <p>「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」</p>
72	94	1前文	<p>国連総会において「手話の使用を認める～」の部分ですが、手話の使用ではなく手話が言語として認められたことを強調していただいた方が良くと思います。</p> <p>そのほかについては、これまでの手話が軽視されていた歴史、訴えたい内容が込められておりとても良いと思います。</p> <p>手話言語条例制定は必須ですが、今後の課題は普及だと思えます。普及活動を具体的に検討いただいた方が良くと思います。</p> <p>今後も手話言語法の制定を目指し、「手話は言語である」ことを周知していただきたいと思えます。</p>					○	<p>言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。</p> <p>「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」</p>
73	95	全体	手話をよく使う身からしたら手話言語条例が制定されるということは嬉しいです。					○	<p>この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。</p> <p>市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。</p>
74 (1)	96		未回答					○	-
75 (76)	97	1前文	手話の使用を認める内容ではなく、手話は言語であるということではないですか？					○	<p>言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。</p> <p>「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」</p>
76 (75)	98	8施策の推進	<p>(施策の推進)</p> <p>財政措置は無いんですか？</p> <p>あつた方がもっと普及できると私はふと思った。</p> <p>点検や見直しはとても大事。またそれを決める際は当事者団体に関わることが書かれていてとても良い。</p>					○	<p>この条例では、「施策を総合的かつ計画的に講ずる」とし、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」において、目標年次や量的な目標値も定めていくこととしています。</p> <p>量的な目標値等を定めるにあたり、必要な財政措置の検討も併うものと考えています。</p>
76 (75)	99	1前文	(前文)これは必要。ろう者や手話の背景があつてこそ条例があることをみんなに知ってほしい基本的なことが書かれている。					○	<p>この条例では、「手話は言語である」との認識に基づき、条例の目的や基本理念等を本則に定めています。</p> <p>こうした条例を制定するに至った経緯や趣旨が分かるよう前文で説明し、誰にとっても条例の目的や基本理念等が理解しやすくなるようにしています。</p> <p>今後とも、手話への理解が深まるよう、前文を含めた条例の周知に努めてまいります。</p>

76 (75)	100	3定義	(定義)ろう者は耳が聞こえないことが前提。聞こえる人を含める場合は手話者または手話言語者と表記するのが相応しいと私は考える。そのままだと混同してしまうため、聞こえない人と聞こえる人を分けて表記をした方がよい。		○		ご指摘のとおり、混同を避けるため、「定義」においては「聴覚に障がいがある者のうち」と追記します。 なお、手話への理解を通じて、全ての市民が安心して暮らすことができる社会づくりに向けての施策の対象は、ろう者はもとより、その家族等も想定していることから、前文の一部条文については、「ろう者をはじめとした日常的に手話を使う市民」との表現といたします。
77	101	8施策の推進	8施策の推進:解説で「手話を守る」について、手話を理解して身に着ける人を増やす体制の整備・拡充も必要だが、当事者である「ろう者の言語としての手話の存続」を守ってほしい。聞こえる人向けの施策ではなく、手話を言語として生活するろう者の「手話」をどう守るか、教育場面やろう者の活動(集団確保)の場の拡充にも視点を向けてほしい。			○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、ろう者をはじめとした手話を必要とする方々にとって手話が守られていると実感できる施策も、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
77	102	1前文	【前文〇5】「手話への理解を契機として…」→「手話が言語である理解を契機として」に変更してほしい。今の社会において、手話や福祉は普及、向上しているが、「手話が言語である」理解はまだ浸透していないために「言語」ということばを常に意識してほしい。			○	手話について、意思疎通の手段に限らず、歴史的背景なども含めた広い理解を期待することから、「手話への理解」としてはいます。 なお、手話が言語であることは、「前文」後段、「目的」、「基本理念」といった、この条例の根幹にかかる部分において記載しています。
77	103	8施策の推進	【その他、解説について】 5市の責務:解説では、手話通訳者の設置や派遣、養成講座の開催とあるが、これは既存の意思疎通支援事業などで実施しているものであり、言語条例の制定における独自の取り組みが見える形を期待したい。			○	この条例に基づき講じる施策は、「施策の推進」に掲げる3つの柱を予定しています。 具体的には、条例骨子案の解説にも記載しているとおり、啓発イベントの実施やリーフレット配布による手話への理解促進、手話通訳者の派遣等による意思疎通支援、手話教室等の実施による手話を身に付ける人の確保を検討しております。 今後も、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
78	104	8施策の推進	私は、ろう者とお話が出来るようになりたいと手話の勉強を始めました。 普通に会話したい気持ちはあっても、なかなか覚えられない…また積極的に会話する勇気が無い等、苦になりつつ…いやこんな気持ちになるのは嫌だ!と、切り替えたりします。 手話が言語となって、普通に自然に、皆が手話で会話出来るようになれば良いと思いますが、この条例の骨子案の、市の責務についてですが、小さな子供の頃から授業の中で、ろう者の世界を学んだり、立場に立つ事など基本的な事や、また手話をたくさん学べたらもっと広がっていくのではないかと… また事業や地域でも、手話は使っていないと忘れてしまうので、皆が継続して学んでいける方法があれば…と思いました。 手話が言語になって、世界で通じ合えるようになったらステキですね。			○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
79	105	その他	聴覚障害者は、見た目では解りづらく全く解らない場合があります。手話は大切な言語なので本当に多くの人に浸透すればいいのに…と思います。			○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
79	106	8施策の推進	学校の授業に週1回1時間でももうけられればいいのになあと思ったりもします。			○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
80 (26)	107	1前文	3行目の「情報伝達的手段として使用しています」という箇所、ろう者にとって「手話は欠かせない言語」であることが伝わるようにしてほしい。「情報伝達的手段」という書き方は、「言語」となるのか曖昧だと感じる。もっと「言語」と明記してほしい。			○	手話も欠かせない言語であると認識しています。 前文冒頭では、言語としての手話の使われ方について説明しており、言語全般が誰にとっても欠かせないものであるとの認識から、手話だけを欠かせないものとする表現はしていません。 なお、前文後段、目的、基本理念において、「手話が言語である」と明記しており、言語全般と同様に生活に欠かせないものとの意味も含んでいます。

81 (88)	108	1前文	前文の部分 「手話は、元来、ろう者への教育に用いられてきたが」の部分、確かに教育へ用いられていましたが、それ以前にろう者同士の日常コミュニケーションに使われていたため、「手話は、元来、ろう者への教育にも用いられてきたが」とした方が正確な記述になります。					手話が、ろう者の教育とともに日常生活でも使われていたことを踏まえて、「教育にも用いられて」という表現に修正します。
81 (88)	109	1前文	「国際連合総会において、手話の使用を認める内容を盛り込んだ」のところ、権利条約が認めたのは「使用」ではなく、「言語であること」ですので、「国際連合総会において、手話が言語であることを認める内容を盛り込んだ」の方が間違いがありません。					言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
82 (91)	110	7事業者の役割	県外から来静するろう者に観光手話ボランティアを加えて欲しい。大道芸祭等の案内所に手話ボランティアを加えて欲しい。				○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 静岡にお越しになる方にとっても、安心して手話を使うことができる地域となるよう、事業者の方々と共に取り組んでまいります。
83	111	全体	骨子案の全般において素晴らしい内容で、真摯な想いが実現に向けて届きますよう祈っております。1日も早く条例が制定され、日常生活において手話が普及することを心より願っております。				○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
84	112	全体	手話奉仕員の勉強を始めてから、静岡市にまだ手話言語条例がない事を知りました。同じ静岡県の政令都市の浜松市にはあるのに、なぜ静岡市にはないのかと不満に思っていました。昨日、手話言語条例について話を聞き、6年もの間、関係者のかたがの方が頑張っていた事を知りました。 全国にろう者はいます。私たちが日本語を言語として話すのと同じように、ろう者の言語は手話なのに、なぜ手話を言語と認める事がこんなに難しいのか大変なかわかりません。 でも、静岡市にもやっと、手話言語条例ができると聞いて、難しい事はわかりませんが、今まで思っていた事をお伝えしたくて。				○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 骨子案作成にあたっては、ろう者や手話通訳者等の関係者からご意見を伺う機会も設けました。 今後も、市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
85	113	8施策の推進	【要望】 2、財政措置は別枠ではなく、条文にこそいれてほしい。事業を実施するにあたり、目に見える予算明文がほしい。これまでの福祉計画や市の事業で網羅できている内容と似た条例ではなく、「手話が言語」としての啓発、普及、取り組みが伺える条例となることを期待して、上記について意見を申し上げます。				○	この条例では、「施策を総合的かつ計画的に講ずる」とし、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」において、目標年次や量的な目標値も定めていくこととしています。量的な目標値等を定めるにあたり、必要な財政措置の検討も併うものと考えています。
85	114	8施策の推進	【要望】 1、今回の条例骨子案では条文の中に「当事者や関係者を含めた手話に関する施策推進協議の参画」について触れていないが、ぜひ障害者権利条約のもととなった国際障害者コーカスの「私たち抜きに私たちのことを決めないで」の理念に基づき、解説ではなく条文にいれてほしい。				○	施策を講ずるにあたり障がい者その他の関係者の意見を聴くことは、この条例の「施策の推進」において規定しています。なお、この条文は、障害者権利条約を踏まえた障害者基本法第10条第2項の規定を反映したものであります。
85	115	1前文	【前文〇3】「手話への理解が浸透していないことで…」とあるが、「どこ(誰)に？」の主格をいれてほしい。				○	前文全体が、条例を制定するに至った経緯や趣旨にかかる社会全体のことを表しています。あえて表現するならば、主格は「社会」となると考えられますが、特定の一文にだけに記載することなく表現しています。
85	116	1前文	【前文〇2】「手話を自由に使うことが認められない時期がありました」と過去形になっているが、「長きにわたり続きました」としてほしい。単に事実として「ありました」ではなく、長く手話を禁止された差別や苦難の歴史的背景をことばとして、前文に追加していただきたい。				○	明文化された言語として位置付けられたのは「障害者の権利に関する条約」(平成18年採択)であり、それ以前は、口話法による教育にみられるように、手話を学ぶことや使うことが否定されてきた状況にあったと認識しています。それをもって、言語として認められなかったかどうかの表現に比べ、当時の状況をより客観的に表した表現としています。この文節における要点は、そうした時期があったにもかかわらず、手話が大切に受け継がれてきたことだと考えています。
85	117	4基本理念	【4基本理念】「手話を必要とするすべての市民が」の主語では、「手話を必要としない市民」には意思疎通を図る権利を有さなくてもよいことと受け取れる。手話の必要性の有無を状況で区別する必要はなく、「すべての市民」が自身の言語で意思疎通ができる社会になるように、主語を「すべての市民」に変えてほしい。				○	「全ての市民が自身の言語で意思疎通できるようにする社会」は、この条例が目指すもの一端を表していると考えます。その上で、手話に関する条例であることから、基本理念としてより具体的に理解できるように「手話を必要とする」と記載しています。
85	118	1前文	【前文〇1】条例の前文の最初に「手話が音声言語である日本語とは異なる言語」であることを入れてほしい。骨子案では、意思疎通支援や情報伝達の「手段」と記載されているが、手段ではなく「言語」であることを広めるための言語条例である。まずは最初に明記していただきたい。	○				「前文」後段、「目的」、「基本理念」において、「手話が言語である」との記載をしています。 その上で、手話が独自の体系を持った言語であることを広く分かりやすく表すために、前文において手話の性質を説明しています。

86 (87)	119	7事業者の役割	仕事の中で、採用後の対応に困ったときの相談窓口は、どこにあるのでしょうか？			○	まず初めの相談窓口として考えられるのは、採用先の人事部門等があげられます。採用先以外であれば、障がい理由として不当な差別的取り扱いや合理的配慮の不提供がある場合は、障害者差別解消法に基づく相談窓口があります。さらに、より広く「困ったとき」に、どこにどのように相談すべきかといった段階から、同じろう者としての立場で相談対応する「聴覚障害者相談員」の設置も行っております。なお、ろう者等を雇用する事業主が対応に困った場合は、障がい者雇用施策における相談窓口が考えられます。
86 (87)	120	1前文	1前文について どこか、聴者が考えて、作ったような、穏やかな感じがします。 本来、手話言語として、もうすでに存在するもの、として考えると手話で生活することは、当然の「権利」であり、それに対応していくのは「義務」なのだとおもいます。 ほかの地区より、遅れて制定される分、より踏み込んだ内容でもいいのではないのでしょうか？ 文京区の条例には、はっきり権利と書かれていました。 日本語話者だけの人が生活しているのと、同じように言語としての権利があるのならば、はっきりと手話を使用する、身につける、情報保障されるのは、当たり前で、 「生きるために必要」だと、示していただきたいです。 この条例は静岡市内に、似ているけど違った文化を持っている人(ろう者、難聴者、盲ろう者、手話を使用する人々)の権利をしっかりと認めるということなのだと思います。 言葉、そしてコミュニケーションは、どの人にとっても、生きていくために必要で欠かせないものとおもいます。 言葉がないと、生きていけません。 この条例は、生きるための権利を、獲得しようとしているのだと、思います。			○	この条例の基盤をなす障害者基本法では、その基本理念として「全ての障害者が、障害者でない者と等しく、基本的人権を享有する個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有することを前提とし」と規定されています。手話を必要とする人の権利も、この基本理念に基づいて保障されるべきものと考えます。 その上で、市の条例として市の事務について規定することから、関係法令において市町村が担うこととされている事務である普及啓発や意思疎通支援に注目し、手話で意思疎通を図る権利を明記しています。 なお、施策を通じた権利保障は、この条例を含む関係法令等で総合的になされるもののため、各法令を所管する関係機関との連携のもとで施策を講じてまいります。
86 (87)	121	8施策の推進	8施策について。 手話教室の開催の中に、難聴者、盲ろう者の方も参加できる教室の開催もぜひ、採用していただきたい			○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話学習の機会が、学ぼうとする人の状況に合わせて設けられていることは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われれます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
87 (86)	122	3定義	手話を日常生活に使用する方と限定され、聴覚障害者全員を示すものではないと、記載されています。 この内容ですと、難聴者、中途失聴者は、この対象から外れることになります。 では、難聴者は手話を使用しないのでしょうか？ 私が出会う難聴者は、難聴者同士で会話する場合は、手話を使用します。 お互いの声を聞き取ることができない為です。 勉強する機会がどこかで出会えた難聴者は、手話を使用します。 また、手話ができない難聴者がいますが、そういった方は勉強する場所がなかったと聞きました。 手話奉仕員の教室の受講を、難聴者は断られた、という話がありました。 普通学校や、中途難聴だと、どこで学習できるのでしょうか？ 本当に手話が必要な方が、学習機会にたどりついていないのではないのでしょうか？ 難聴者が集まらない問題は、ろう者とは異なり、難聴者同士のコミュニケーションができず、集まらないということがあります。この定義を難聴者が見たときに、どういった思いになるか。想像するだけで苦しくなります。 この定義の中に、コミュニケーションの一つとして、手話を必要とする人たち、これから取得する必要がある人たちも、入れていただきたいです。			○	ろう者の「定義」においては、聴覚に障がいがある者の全てが手話を用いる訳ではないことから、解説においてその旨を説明しています。 一方、施策の対象は「ろう者をはじめとした日常的に手話を使う市民」を想定しており、聴覚機能のレベルや聴覚障がいに至る経緯は問うていません。 この条例における「定義」は前述の考えによりますが、この条例の「目的」は、ろう者はもとより、日常的に手話を使う全ての人々が安心して自由に手話を使用できるようにすることを目指しています。 施策を講じるにあたっては、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聞きながら、市民や事業者の方々と共に取り組んでまいります。
88 (81)	123	1前文	私自身、手話言語条例の制定を求めて活動してきました。その立場から意見を述べます。 手話言語の正しい理解は静岡市民にほとんど浸透していません。その様な状態の中、手話の歴史や意義を説いた前文はとても素晴らしく、有意義なものです。 条例制定と共に、手話言語が日本語同様当たり前となって使われる静岡市になって欲しいと願います。			○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できるように目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じるができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。

89 (68)	124	1前文	前文に書かれている内容は、手話が正式な言語として認識され、尊重されるべきものであることを強く訴えるものです。 この前文は条例全体の理念や目的を明確に示し、市民に対して手話の重要性とその役割を理解してもらうための重要なメッセージを発信する役割を果たします。 手話は単なるコミュニケーション手段ではなく、ろう者にとってはろう文化やろう者としてのアイデンティティの一部であり、この前文によってその意義が強く表現されています。 前文は手話言語条例が成立された背景や目的を市民に伝えることで、条例の意義を深く理解してもらうための道しるべとなります。 ぜひ、前文を生かした条例にしていきたいと思ます。					この条例では、「手話は言語である」との認識に基づき、条例の目的や基本理念等を本則に定めています。 こうした条例を制定するに至った経緯や趣旨が分かるよう前文で説明し、誰にとっても条例の目的や基本理念等が理解しやすくなるようにしています。 今後とも、手話への理解が深まるよう、前文を含めた条例の周知に努めてまいります。
90	125		未回答				○	-
91 (82)	126		未回答				○	-
92	127		未回答				○	-
93	128		未回答				○	-
94	129	8施策の推進	手話を学びたくても、養成講座やサークルがあるということを知らない方が多いように思われます。 手話普及のためにも、学べる場所も周知することも必要だと思います。				○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話を学ぼうとする人への情報発信も、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
95	130	8施策の推進	手話が根づけば、ろう者はスムーズにコミュニケーションをとれると思う。現在は、タブレットの普及や様々なコミュニケーション手段があるので、各々が自分にあった意思疎通の手段をとれば、手話に限らず正確に物事の交流を行えると思う。 身につく技術も時間がかかることと思うので、お互いの方向を向ける環境づくりが大事と感じている。				○	ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、タブレット端末等によるICT(情報通信技術)の活用も有効な手段の一つであり、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われまます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
96	131	1前文	前文に条例制定の由来や背景・目的など盛り込んでいること、わかりやすいです。 そもそも、ろう者への教育の前、ろう者同志でコミュニティ社会になっていたきっかけの話聞いています。				○	この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
97	132	9委任	9委任 「この条例の施行に関し必要な事項は、」の後に「この条例施行後〇か月以内に」を追記(※基本条例に下位規則等の整備時期を書き込む例は少ないと思いますが、行政のやる気の発露でもあろうかと思うので提案します。)				○	この規定は、この条例の施行に関して何らかの規定が必要となった際に、「規則」という法形式に委ねることを定めています。 規則が定められる場合は、規則の内容に応じて、その規則において施行日が規定されます。現時点では、規則で定める必要がある事項はないため、期日を明記しないことと考えています。
97	133	8施策の推進	8施策の推進 「手話に関する施策の推進、実施状況の点検、見直しなどの際、ろう者及び手話通訳者その他の手話に関わる者の意見を聴く」 →義務を負う又は聴かねばならない(※要するにmustの文章を入れてほしい)				○	この条例に基づく施策は、障害者基本法に定める市町村障害者計画等(静岡市障がい者共生のまちづくり計画)に定めて、実施状況の点検や見直し等を行うこととしています。 この計画の策定や変更にあたっては、障害者基本法に基づき、合議制の機関(静岡市障害者施策推進協議会)の意見を聴くことが義務付けられています。 一方、その前提として、ろう者や手話に関わる者の意見を聴く機会は、特定の会議体は想定しておらず、広く様々な意見を聴くために、例えば、関係者の自主勉強会等において意見を聴くなども含まれると考えています。意見を聴く形は多様であることが想定されることから、条例により義務化されていることを根拠とするのではなく、市民と市が意見を伝えやすい関係性を築いていくことも意図し、義務とする表現にしています。
97	134	1前文	「ろう者が手話の使用をためらうことがあり」 →ろう者に手話の使用をためらわせることもあり(※社会、世間の理解が不十分であったことで「ためらわれ」ていたのではないかとはいえ、文章の意味は同じです。)				○	手話の使用をためらうことや、それにより不安に感じるようになった要因が、手話への理解が浸透していない社会状況にあると認識しています。一方、結果として手話の使用をためらうのは、ろう者であるため、現状の表記としています。

97	135	1前文	言語が文化を作り、文化が言語を作るというニュアンスが入ると嬉しいです。 1前文 「表現する際にも用いられています。」 →ひいては、ろう文化の基盤の一つとなっています。(※言語という視点にろう文化ということ盛り込めませんか)				○	前文にある「ろう者が思考を巡らせ、表現する際に(手話を)用いる」ことは、文化を創造する一端となっていると認識しています。 手話をを用い続けることで創造される生活上の文化は、その独自性も含めて尊重されるものと考えており、前文にはその意図も含まれています。
97	136	1前文	「手話は、元来、ろう者への教育に用いられてきましたが、国際的に～」 →過去には、(又はかつては)(※過去にあったということがこのフレーズ最後にでてくるので、読むとき違和感がありました。)				○	この文節では、全体で、手話を自由に使うことが認められない時期があったことを表しています。すべて過去のことになるなか、時系列として古い部分に「元来」と表記し、区別しています。
98	137	1前文	この文章を読んだとき、じゃあ不安を解消すれば良いんだ、という印象が残りました。ろう者は不安だけでなく解説にあるような不便さも強く感じていると思います。手話が使えないことがどれだけ大変かということ表現するために、不安という言葉だけではなく「生きづらさ」のような強くアピールする言葉があってもいいように感じました。				○	不安に限らず不便さも伴っているという認識は、ご指摘のとおりと考えます。 そうしたなか、不便さに対しては、「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律」(令和4年施行)などにより、その解消に向けた法整備が進められているところです。 そのため、この条例では、こうした法整備が進められてもお残る課題として「不安」をとりあげて、安心して生活できる地域社会の実現を目指して制定しようとするものです。 なお、「生きづらさ」という表現は、その要因が多様であることから、対応する施策も広大になるため用いていません。
99	138	8施策の推進	条文条例には不慣れのため、見間違いかもしれませんが気になった点について記します。 リーフレットの5手話に関する施策の推進の③の下部「市長が必要と認める」の部分が気になります。必要と感じるのはろう者であり話し相手の健聴者です。市長が認めない限り、何も実現しないのでしょうか。希望を全て通すことが出来ないのは承知していますが別の表現にならないでしょうか。				○	この条例に基づき講じる施策は、「施策の推進」に掲げる3つを主に取り組むものとして規定しています。これらは、関係法令で市町村の役割として規定されているものが中心となりますが、これ以外に、この条例の目的達成のために必要な施策が生じた場合の根拠規定として設けられているものです。市が定める条例として市の事務について規定することから、市の事務を管理し執行する市長が認めるものとなります。
99	139	1前文	前文の2番目にある「手話の使用を認める内容」についても同様で、健聴者は発言を禁止されていない環境では他人の許可無く音声言語を使用できるのに、ろう者が手話を使用するのに許可がいるのは差別です。 ろう者も健聴者も差別なく共存する社会は、本来当然あるべき自然な姿の筈ですが、認められないと手話を使用できないと受け取れる表現は適切でないと感じます。				○	言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧にすることは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
100	140		未回答					○
101	141	7事業者の役割	7.事業者の役割「ろう者が利用しやすいサービスの提供」についてですが、ろう者は提供してもらう立場でしょうか?上から目線の言い方に感じます。				○	一般的に、サービスの利用は対等な関係のうえで行われると考えます。対等な関係であることを前提に、手話を必要とすることでサービス利用のしづらさが生じないように取り組みを求める内容としています。
101	142	8施策の推進	全国的に手話言語条例が広がっている中で、どの地域の条例にも「財政上の措置」が含まれているのに対し、静岡市の条例案にはその記載がありません。予算が確保されるのか不安を感じています。				○	この条例では、「施策を総合的かつ計画的に講ずる」とし、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」において、目標年次や量的な目標値も定めていくこととしています。量的な目標値等を定めるにあたり、必要な財政措置の検討も伴うものと考えています。
101	143	1前文	この条例はろう者のためだけのものではありません。「ろう者=手話」という考え方が誤解を招くことも強調したいです。聞こえる市民も聞こえない人とのコミュニケーションに手話がないと困るのではないのでしょうか。 手話言語は日本語と同様に、すべての市民に共通する言語であって欲しいです。前文に「日常的に手話を使う市民(ろう者)」とあるが、ろう者だけでなく、他の聞こえる人々も含まれると思っていますし、この観点から、3つ目の項目「一方…不安につながっています」は、手話への理解が浸透していないことがさまざまな不便や問題を引き起こしているというような内容に変更した方が良いと思います。				○	意思疎通が双方向性であることから、手話を使用することができずに困るのは、ろう者に限りません。その上で、双方に不安に限らず不便さも伴っているという認識は、ご指摘のとおりと考えます。 そうしたなか、不便さに対しては、「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律」(令和4年施行)などにより、その解消に向けた法整備が進められているところです。 そのため、この条例では、こうした法整備が進められてもお残る課題として「不安」をとりあげて、安心して生活できる地域社会の実現を目指して制定しようとするものです。 さらに、条例を制定する上で一定の対象者を想定する必要があるものの、前文の最後にあるとおり、手話への理解を契機として、広く全ての市民が安心して暮らすことができる本市となることを目指して制定するものです。

101	144	1前文	前文は手話言語条例検討委員会が作った内容の方が簡潔でわかりやすかったです。前文の内容が大きく変更されており、特に「手話の使用を認める」という表現には疑問を感じます。手話はろう者にとってあたりまえの言語であり、許可を得て使うようなものではありません。ろう者が軽視されている印象があり、誤解を招くので「手話言語を認める」という表現に改めた方が良いと思います。			○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
101	145	8施策の推進	静岡県で、政令指定都市である静岡市の手話言語条例制定がなかなか実現しなかったため、条例の制定を心待ちにしていました。聴覚に障害を持っていることで多くの差別が存在しています。会社では低く見られ、さまざまな人権侵害に苦しんでいます。ろう者を尊重する社会の実現を切に願っています。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見にあるとおり、ろう者とう者以外の方が互いに尊重し合う地域社会は、この条例の目的とするものです。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
101	146	8施策の推進	公私を問わず、どこでも手話通訳が必要です。特に災害時には地域の助け合いが重要なため、地域社会において手話の理解を深めるよう推し進めるべきだと思います。市役所・病院などの公共機関から手話ができる人材を増やしていただきたいです。また、学校教育の授業に取り入れて、子どものうちから教育した方が良いと思います。ろう者は、日本語や英語も含め聞こえる人々が使用する音声言語が全く意味を持たないものであることを理解する必要があります。視覚的な「ことば」が必要不可欠です。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、災害時等の情報保障は重要であり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
102	147	全体	よい案だと思います。 手話を使う方々が社会の中で、言語による障壁のない暮らしができるよう願います。 手話言語条例により、行政をはじめ市民のみならずの理解が広まると思います。			○		この条例では、ろう者をはじめとした手話を必要とする全ての人々が、時間や場所を問わず、安心して自由に手話を使用できることを目指しています。 市民や事業者の方々とともに、手話を身近に感じることができるよう、より一層、手話への理解の促進に取り組んでまいります。
103	148	1前文	「使用を認める」という表現はおかしい。「手話は言語であることを認める」だと思います。			○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
103	149	1前文	「国際的に手話の使用の排除が進み」の部分は、「ミラノ会議」という具体的な歴史的背景を組み込んだほうがよいと思います。			○		前文では、手話の歴史について分かりやすくするため、端的な記載にとどめています。 今後、普及啓発をしていくにあたり、より詳しい歴史的経緯も踏まえた条例の周知に取り組んでまいります。
104	150	1前文	1前文について 「障害者の権利に関する条約」の定義に「言語とは、音声言語及び手話その他の形態の非音声言語等をいう」とあり、言語平等の法則が根拠となっているようです。前文に書かれている「手話の使用を認める」という記述は、使用を認める人がいるのか、それは多数派の聞こえる人？と誤解を招く書き方だと思います。			○		言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。 「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」
104	151	8施策の推進	8施策について 主な取り組みに書かれている施策は、すでに実施している事業です。静岡市は、長年静岡市ろうあ協会や手話通訳者等との協議を重ね、暮らしやすい社会を構築してきていただいたことには感謝しています。「共生のまちづくり」の理念のもとに、必要とされる団体や場所・地域にこちらから飛び込んでいく(どこに手が届くとよいのか)などを考え、ピンポイントでもよいので施策に反映していただければと思います。(例 消防署・民生委員・町内・地区社協など)			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、施策の展開にあたっては、より効果的な対象を絞って働きかけていくことも重要だと考えます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。
104	152	8施策の推進	静岡市の手話サークル「するがの会」は昭和45年に設立されており、50年以上の歴史があります。そこには言語としての「手話」が存在していて手話で聞こえない人と聞こえる人がつながってきたと思います。でも、それは一部であり、まだまだ「手話」を否定される、手話で話す聞こえない人を受け入れられない社会があります。静岡市が条例を制定することで、手話が広がる＝誰もが暮らしやすい街になるように、私も市民の役割を果たしていきます。			○		ご意見ありがとうございます。 現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。 いただいたご意見のとおり、手話を守り、理解を深める取り組みは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。 今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。

105	153	8施策の推進	<p>*手話への理解を高めていく取り組みとは、具体的にどんな事を考えていますか？</p> <p>*小学校の授業等で、積極的にろう者や手話との関わりが持てる時間を作っていただけると良いと思います。</p>				○	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>この条例に基づき講じる施策は、「施策の推進」に掲げる3つの柱を予定しています。なかでも手話への理解及び手話の普及に関する具体的な取り組みとしては、条例骨子案の解説にも記載しているとおり、啓発イベントの実施やリーフレット配布による手話への理解促進を検討しております。</p> <p>いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。</p> <p>今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。</p>
106	154	8施策の推進	<p>予算措置について記載がないが、施行後、財政上の措置は講じられるのか？</p>				○	<p>この条例では、「施策を総合的かつ計画的に講ずる」とし、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」において、目標年次や量的な目標値も定めていくこととしています。量的な目標値等を定めるにあたり、必要な財政措置の検討も伴うものと考えています。</p>
106	155	1前文	<p>障害者権利条約では「手話の使用を認める」ではなく「手話は言語である」ことが定義されていることなど、誤っている箇所は訂正願いたい。</p>				○	<p>言語としての手話の記載について、国際的な合意文書である条約に明記されることは歴史的転換点であり、その説明をより丁寧に行うことは、前文の趣旨に合っていることから、次のように修正します。</p> <p>「平成18年に国際連合総会において採択された障害者の権利に関する条約では、手話が言語の一つとして定義付けられ、「手話の使用を認め、及び促進すること」が、締約国がとる措置として明記されました。」</p>
106	156	1前文	<p>前文は、ろう者の思いが書かれていてとても良いと思います。しかし「ミラノ会議」について記載がないことは、訂正願いたい。</p>				○	<p>前文では、手話の歴史について分かりやすくするため、端的な記載にとどめています。今後、普及啓発をしていくにあたり、より詳しい歴史的経緯も踏まえた条例の周知に取り組んでまいります。</p>
106	157	8施策の推進	<p>制定後の条例に関する調査等を実施する会議…専門委員会などの立ち上げはないのか？</p> <p>静岡市にも待ちに待った手話言語条例が制定されることを嬉しく思います。長い時間を費やし検討いただいた内容が、ろう者の声、市民の声が反映された条例であることを心から期待しています。</p>				○	<p>現時点では、この条例を根拠として、調査等を実践する専門委員会の立ち上げは予定していません。</p> <p>この条例で規定する内容は、基本理念や施策の柱であり、より具体的な取り組み等は、今後、ろう者や関係者などと意見交換しながら検討していくこととなります。</p> <p>施策を講ずるにあたっての意見交換を行うことも、一つの調査にあたることも考えられます。条例制定の効果は、その指標設定も含め、意見交換を行っていく中で合意形成や調整していく部分もあると想定しています。</p>
107	158	8施策の推進	<p>・道徳の時間等、学校教育の中で手話を学べる場を設ける。</p> <p>・ろう者の方による講演会。</p> <p>・手話検定をもっと身近なものにする。</p> <p>普通学校では、ろう者の方と接する機会がなく、学生のろう者に対する理解が進んでいないと思う。</p>				○	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現時点での取り組みや検討している取り組みは、条例骨子案の解説に記載しているとおりです。</p> <p>いただいたご意見のとおり、日常生活において手話に触れる機会を増やすことは、この条例が目的とする地域共生社会づくりに寄与するものと思われます。</p> <p>今後、手話利用者をはじめとした関係する方々の意見も聴きながら、市民や事業者の方々と共に、効果的な取り組みを講じてまいります。</p>